

学校だより

1月号

新年を迎えて

校長 加納 一好

港区立白金小学校

発行人 加納 一好

平成三十年一月九日



「学びに向かう力」を育てる研究活動について②

研究推進委員長 白石 裕彦

新年明けましておめでとうございます。成年は新しい生命の始まりを予感させる縁起の良い年です。実を結ぶ年にしたいですね。

昨年は、白金小学校にとって充実した一年でした。日々の教育活動とともに運動会や音楽会など様々な学校行事を通して、子供たちは大きく成長しました。保護者や地域の皆様のご協力があったからこそ充実した教育活動ができました。感謝いたします。年末のもちつきもありがとうございました。お手伝いの皆様の手際の上さに今回も驚かされました。

まずは、テレビや新聞でも報道されている二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックのマスコットキャラクター投票の報告です。本校でも二学期末に学級ごとに話し合いました。結果、アが九票、イが六票、ウが三票となりました。この票数をそのまま本部に投票しました。これから全国の小学校から投票されていきます。どのキャラクターが選ばれるか、子供たちとともに楽しみたいと思います。二月と三月には平昌で冬季オリンピックとパラリンピックが開催されます。こうした機会を通して、東京オリンピック・パラリンピックへの機運をさらに醸成していきたいと思えます。

さて、お正月に「消えた天才」一流アスリートが勝てなかった人「大追跡」と「私が嫉妬したスゴい人」というテレビ番組を見ました。「消えた天才」は桐生祥秀選手が小学校時代に徒競走で勝てなかった人の今を追うというような内容でした。古賀稔彦さんと岩崎恭子さんは天才にそれぞれの兄と姉をあげていました。兄と姉にどうしても勝てなかった。しかし、そこを目標にがんばった。そして超えた。弟が兄に勝ったとき、兄は弟の才能を感じ、サポートにまわりました。上原浩治投手が嫉妬した人は高橋由伸監督だそうです。同じ生年月日ながら一年目から大活躍で大人気の高橋選手に負けたくないという気持ちが一歩遅く入団した上原投手のルーキーイヤー二十勝を達成させたのかもしれないです。

この二つの番組から共通して感じたのは、ライバルの存在の大きさです。「勝てなかった人」も「嫉妬した人」も自分にとってのライバルです。ライバルという目標があったら勝たいたいと思うから努力をする。さらに言えば、人物ではなくても目標を掲げることが大切なのだと思います。短い三学期、何もなくてもあつと言う間に過ぎてしまします。残り三か月、子供たちには目標をもって中学校や次の学年に向けて成長してほしいと思います。

白金小学校もさらに信頼される学校を目指し努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

席書会・書き初め展について

国語部 山崎 真希

本校では、一月十日に、全校で席書会（書き初め）を行います。低学年は硬筆で、中・高学年は毛筆で書きます。

書き初めとは、年が明けて初めて毛筆で書や絵をかく行事で、通常は一月二日に行われます。元々は、朝一番に井戸から汲んだ若水を使って、墨をすり、恵方に向かって詩歌を書くという宮中の儀式だったものが江戸時代以降に庶民に広がったというのが起源だと言われています。

現在では、日常生活で毛筆を使うことは少なくなりましたが、日本の伝統文化を継承するという意味でも、学校で席書会を今後も続けていきたいと思えます。

冬休みに一生懸命書き初めの練習に取り組んだ成果を、席書会で発揮してほしいと思います。

今年も教室内の展示を止め、廊下と特別教室を使っての展示になりました。そのため、展示期間中は時間内に自由にご覧いただけます。

書き初め展は左記のように行いますので、ぜひご覧ください。

展示期間 一月十五日（月）～二十日（土）

時間 八時一五分～一六時半

※土曜日は十二時一五分まで

展示場所 廊下・階段掲示板

児童会室・プラチナ教室

十月号でお伝えした三年生と五年生の社会科に続き、その後も様々な学年・教科で「学びに向かう力を育てる授業づくり」の主題のもと、研究授業を行ってきました。

六年三組川邊学級では、理科「てこのはたらき」の発展学習で、重さのわからない「？ボックス」の重さを調べました。一年一組猪狩学級で行った算数「どっちがひろい」では、レジャーシートを模した複数の紙の広さを比べる学習でした。二つの授業に共通して言えることは、これまでに学んだことを生かした、面白い発展的な学習であるということです。子供たちが解きたいと思う課題であること、ちょっと難しい課題であることが、子供たちの学習意欲を高めていました。

三年二組山崎学級では、国際科「いっしょにあそぼう」を行いました。自分たちで選んだ遊びやゲームを友達に英語で説明したり、状況に応じてほめ言葉や励まし言葉を使ったりするという活動でした。どの子も自分なりに考えて、これまでに学んだ表現の中から、上手に英語を使っていて感心しました。子供たち一人一人が、自分の力を発揮する場面があると、自己有用感や達成感が得られます。その一つ一つが、自分を成長させようと思う気持ちにつながるのだと思います。

二年二組高橋宏佳学級では道徳「どっちもぬくぬく」の授業を行いました。役割演技やペアトークなど様々な活動形態でテーマである友情について迫っていました。友達と交流したり、協働的に行ったりすることで、考えを深めることができます。いろいろな考えをもつ友達と共に学ぶよさを感じていたのではないかと思います。

三学期は、体育（四年）、図工（四年）で研究授業を行ってまいります。